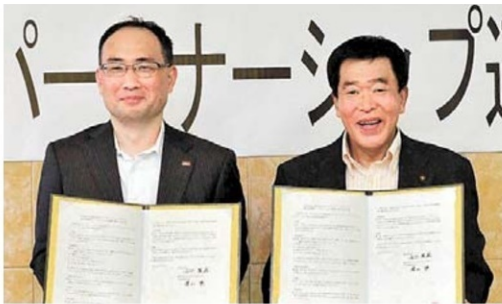


多治見市とバローHDが協定

市民の健康増進へ連携

多治見市とバローホールディングス(HD、本部同市)は3日、「総合的健康パートナーシップ連携に関する協定」を締結した。バローグループの専門家による食事指導などで協力し、市民の健康維持・増進に役立てる。

両者はこれまでも災害時の生活必需物資の供給協力、避難場所提供について協定を結んでいるが、包括



協定書を手にする篠花明常務(左)と古川雅典市長＝多治見市役所

的な連携を進めることにした。バローHDが自治体と包括連携協定を結ぶのは、創業地の恵那市に続き2例目。多治見市にとって企業との包括連携協定は6例目。

衣食住、ペット、スポーツクラブなど幅広い分野での協力を目指す。具体的には中部薬品の薬剤師や管理栄養士による食事指導、メタボリックシンドロームやフレイル予防についての相談を、公民館の出前講座やオンラインで企画する。引き続き災害時の物資提供、避難所提供も想定する。

市役所で締結式を開き、古川雅典市長は「バローグループの持つ知識、経験、ネットワークを市民の健康づくりに生かしていただきたい」とあいさつ。篠花明常務は「災害時、教育文化に限らず、つながりを増やし貢献していく」と話した。

(箕浦由美子)